

## 生きもの調査・外来種駆除活動を開催しました！

平成28年5月28日(土)に、「西尾いきものふれあいの里」とその周辺で生きもの調査・外来種駆除活動を開催しました。

活動には、室場小学校の児童・父兄の方々を始め、命をつなぐプロジェクト学生実行委員会等の大学生、地域の方々や協議会の会員など、70名を超える人々が参加し、自分たちで生きものを捕まえて観察することにより、地域の自然の大切さと外来種の猛威について実感しました。

第1部では、小草池や須美川で実際にカメや魚類を捕獲して、捕獲した生きもので観察会を行いました。捕獲した生きものの特徴や生態について調べて、知識を深めると共に、それらを在来種と外来種に分けて、外来種については生態系保全のために駆除しました。

小草池に仕掛けたカメわなには、体長30cmを超えるスッポンが捕まりました。扱いに不慣れな参加者らは、淡水カメの専門家である矢部隆副会長の指導のもと、恐る恐るスッポンに触れ、他のカメとは違う肌触りを実感していました。なお、当日は17匹のカメを捕獲しましたが、そのうち12匹(約70%)が外来種のミシシippアカミミガメでした。

須美川では、神本晃西尾いきものふれあいの里講師の指導のもと、がさがさにより魚類等を捕獲しました。モツゴ、タモロコ、ヌマエビなどの在来種を捕獲することができました。

一方で、タイリクバラタナゴやブルーギル、カダヤシなどの外来種も捕獲しました。

第2部では、室場小学校を始め、地元の美しい室場を育てる会の方々が生保全活動を行っている深篠川でゲンジボタルの観察会を行いました。

観察会では、高橋室場小学校長からゲンジボタルの生態や生息環境の特徴について説明を受け、環境保全の重要性について学びました。

辺りが暗くなると、深篠川沿いの茂みには沢山のゲンジボタルが舞い、参加者はホタル鑑賞を楽しみました。

※生きもの調査・外来種駆除活動の調査結果については、別表のとおり。

## 【会長(事務局)から】

このたびの「生きもの調査・外来種駆除活動」では、西尾市の自然豊かな里地環境にまで外来種の侵入を確認しました。

多数のミシシippアカミミガメを捕獲する一方で、ニホンイシガメやニホンスッポンの生息も確認できました。

高橋室場小学校校長の話では、須美川は、以前はメダカが生息していたのですが、今回の調査では、全てが特定外来生物のカダヤシでした。

また、今回の調査では、ヌマエビを多数確認しましたが、隣接する家武地区にはアメリカザリガニが生息しているとのことで、このアメリカザリガニが侵入すると、ヌマエビが駆逐される恐れがあります。

今回の調査地は、外来種と在来種の迫間の地域であると考えられます。

このような地域では、外来種圧を低減することにより、在来種の保護ができることから、積極的な外来種駆除を行うことが必要であると考えます。

深篠川については、地域の方々が一丸となって保全活動を行うことにより、ゲンジボタルの自然発生に至っています。

地域の人々の地道な保全活動が、里地環境維持に大きく寄与していることを再認識しました。

また、参加者らはホタルを追いかけ、実際に手に取るなどして、五感をフルに活かして「ホタル」という生きものを認識していました。観光地では、ホタル鑑賞はできても、なかなか手に取って見ることはできません。

日頃から生きものに触れる体験は、自然環境教育の第一歩であると考えます。

本協議会としましては、引き続き参加者の皆様方に自然と触れあう機会を提供し、生物多様性保全の取組を推進していく所存です。

本活動にご協力いただいた、西尾いきものふれあいの里、室場小学校、美しい室場を育てる会、山旺建設株式会社、その他多くの方々にお礼申し上げます。

活動状況写真とコメント

写 真	内 容
	<p>小草池でカメわなを引き上げる参加者ら</p>
	<p>矢部副会長の指導の下、スッポンに触れる室場小学校の児童ら</p>
	<p>須美川で生きもの調査を楽しむ参加者ら</p>

No. 2-2. 活動状況

写 真	内 容
	<p>捕獲したアオダイショウを首に巻く大学生</p>
	<p>捕獲した魚を水槽に入れて観察する児童ら</p>
	<p>深篠川で高橋校長のホタルの説明に聞き入る参加者ら</p>